


製品安全データシート

US OSHA; WHMIS

1. セクション 1: 物質/混合物の名称および企業の名称

1.1	製品識別名	
	製品名	DRAQ5
	製品番号	DR05100; DR05500; DR10100; DR50050; DR50200; DR51000
	CAS 番号	割り当てられていない。
	EINECS 番号	割り当てられていない。
	REACH登録番号	割り当てられていない。
1.2	当該物質または混合物の記載されている重要用途および指導対象の用途	
	記載されている用途	Fluorescent DNA Dye SU42 科学的な研究と開発
1.3	安全性データシート供給者の詳細	
	会社情報	BioStatus Limited 56A Charnwood Road Shepshed Leicestershire LE12 9NP United Kingdom
	電話	T: +44 1509 558 163
	F a x	F: +44 1509 651 061
	Eメール(担当者)	E: enquiry@biostatus.com W: www.biostatus.com
1.4	緊急電話番号	
	緊急連絡用電話の番号	+44 1509 558 163 (Hours of operation 09.00-18.00 GMT Mon-Fri)

2. セクション 2: 危険有害性の要約

2.1	物質または混合物の分類	
	製品説明	混合物。 青色。透明な。液体。無臭。
	US OSHA	危険有害成分(類)
	WHMIS	D2B
2.2	表示要素	欧州 C L P 規則 (No.1272/2008) によれば
	製品名	DRAQ5
	危険性を表す絵文字	
	注意喚起語	警告
	危険有害性情報	H315: 膚刺激性。 H319 : 強い眼刺激。

危険有害性情報

H335: 呼吸刺激を起こすおそれ。
 P280: 保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用する。P264: 取り扱いの後(手と暴露された皮膚)を徹底的に洗う。P305 + P351 + P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。P312: 気分が悪い時は、医師に連絡する。
 P332 + P313: 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
 P362: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯する。

2.3 他の危険有害性

警告-この混合物にはまだ完全に試験されていない物質が含まれている。

2.4 追加情報

なし。

3. セクション 3: 組成/成分情報

3.2 混合物

危険有害成分(類)	%	CAS 番号	US OSHA	WHMIS
1,5-BIS[[2-(DIMETHYLAMINO)ETHYL]AMINO]-4,8-DIHYDROXYANTHRACENE-9,10-DIONE	<1	割り当てられていない。	刺激性がある。	D2B

3.3 追加情報

H/P フレーズのテキスト全部分については、セクション 16 を参照する。

4. セクション 4: 応急処置



4.1 応急処置の説明

全般的情報

警告-この混合物にはまだ完全に試験されていない物質が含まれている。

吸入

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

摂取

飲み込んだとき: 口をゆすぐこと。直ちに医師の手当てを受けること。

皮膚接触

皮膚又は髪に付着した場合: 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。症状が続いた場合、医師の治療を受ける。

目の接触

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこ

<p>4.2 最も重要な症状および作用（急性および遅発性）</p> <p>吸入</p> <p>摂取</p> <p>皮膚接触</p> <p>目の接触</p> <p>4.3 医師の手当てと特別な処置が直ちに必要な状態</p>	<p>と。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。</p> <p>呼吸器系を刺激することがある。</p> <p>胃痛。嘔吐。</p> <p>刺激を起こすことがある。</p> <p>目に刺激を起こすことがある。</p> <p>症状によって処置する。</p>
--	--

5. セクション 5: 火災時の措置

<p>5.1 消火剤</p> <p>5.2 当該物質または混合物に起因する特別な危険性</p> <p>5.3 消防士へのアドバイス</p>	<p>非引火性。周囲で火事が起こった場合：すべての消火剤を許可する</p> <p>予想されていない。</p> <p>消火作業員は自給式呼吸器を含む完全な保護服を着用すること。</p>
---	---

6. セクション 6: 漏出時の措置

<p>6.1 人体に対する予防措置、保護具および緊急時措置</p> <p>6.2 環境的予防措置</p> <p>6.3 封じ込めと清掃のための方法および資材</p> <p>6.4 他のセクションの参照先</p>	<p>適切な保護衣、手袋および目/顔面保護具を着用する。</p> <p>吸収材で覆うか、または封じ込め、回収し廃棄すること。</p> <p>適切な保護衣、手袋および目/顔面保護具を着用する。吸収材で覆うか、または封じ込め、回収し廃棄すること。この物質および容器は有害廃棄物もしくは特定廃棄物の収集場所に廃棄する。流出した場所を水で洗う。</p> <p>適切な保護衣、手袋および目/顔面保護具を着用する。H/P フレーズのテキスト全部分については、セクション 16 を参照する。13 章に従って機械的に回収し廃棄すること。</p>
---	--

7. セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

<p>7.1 安全な取り扱いのための注意事項</p> <p>7.2 安全な貯蔵のための条件（不適合条件を含む）</p> <p>保管温度</p> <p>保管期間</p>	<p>専門家向けのみ。</p> <p>使用/保管説明書を遵守すること。</p> <p>適切な保護衣、手袋および目/顔面保護具を着用する。</p> <p>皮膚および目との接触を避ける。</p> <p>喫煙、飲食の前には必ず手を洗う。</p> <p>保管温度 (°C): 2-8. 凍らせない。</p> <p>表示されている指示および使用方法を遵守すること。</p>
---	---

7.3 混触危険物質
具体的最終用途

予想されていない。
Fluorescent DNA Dye
SU42 科学的な研究と開発

8. セクション 8: 暴露防止及び保護措置

8.1 管理指標

暴露限界値	決まっていない。
アメリカ(NIOSH/OSHA)	決まっていない。
BEI:生物学的暴露指標(ACGIH)	決まっていない。
OEL(アイルランド)	決まっていない。
日本(ENCS)	決まっていない。

8.2 暴露管理

8.2.1 適切な工学的管理 十分に排気する。

8.2.2 保護具



目/顔面の保護

眼の保護具（ゴーグル、防災面または保護めがね）を着用すること。

皮膚の保護 (手の保護/ その他)

適切な保護衣および手袋を着用する。

呼吸器の保護

通常要求されていない。この物質は室温での蒸気圧が低いので、吸入による有害性があるとは思われない。

9. セクション 9: 物理的および化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性についての情報

外観	有色の液体。
色	青色。
におい	無臭。
臭いの閾値	資料なし。
pH	資料なし。
融点/凝固点	資料なし。
初留点と沸騰範囲	資料なし。
引火点	資料なし。
蒸発速度	資料なし。
燃焼性 (固体、ガス)	資料なし。
上限/下限可燃性または爆発限界	資料なし。
蒸気圧	資料なし。
蒸気密度	資料なし。
相対密度	資料なし。
溶解度	資料なし。
分配係数: n-オクタノール/水	資料なし。

自然発火温度	資料なし。
分解温度	資料なし。
粘度	資料なし。
爆発性	資料なし。
酸化性	資料なし。
9.2 その他の情報	知られていない。

10. セクション 10: 安定性および反応性

10.1 反応性	知られていない。
10.2 化学的安定性	常温で安定。
10.3 危険な反応の可能性	知られていない。
10.4 避けるべき条件	知られていない。
10.5 混触危険物質	強酸化物類。強い。アルカリ類。
10.6 危険有害性分解生成物	知られていない。

11. セクション 11: 有害性情報

11.1 毒性に関する情報	
混合物。	
警告-この混合物にはまだ完全に試験されていない物質が含まれている。	
急性毒性	決まっていない。利用可能な情報なし。
刺激性	決まっていない。利用可能な情報なし。
腐食性	決まっていない。利用可能な情報なし。
感作性	決まっていない。利用可能な情報なし。
特定標的臓器への毒性（単回暴露）	決まっていない。利用可能な情報なし。
反復投与毒性	決まっていない。利用可能な情報なし。
発がん性	決まっていない。利用可能な情報なし。
変異原性	決まっていない。利用可能な情報なし。
生殖毒性	決まっていない。利用可能な情報なし。
11.2 その他の情報	
吸入	呼吸器系を刺激することがある。
摂取	有害性: 飲み込んだとき不可逆的影響のリスクの可能性が ある。
皮膚接触	刺激を起こすことがある。
目の接触	目に刺激を起こすことがある。

12. セクション 12: 環境影響情報

12.1 毒性	決まっていない。利用可能な情報なし。
---------	--------------------

12.2	残留性および分解性	決まっていない。利用可能な情報なし。
12.3	生物蓄積性	決まっていない。利用可能な情報なし。
12.4	土壌中の移動度	決まっていない。利用可能な情報なし。
12.5	PBT および vPvB 評価の結果	決まっていない。利用可能な情報なし。
12.6	その他の有害な作用	決まっていない。利用可能な情報なし。

13. セクション 13: 廃棄上の注意

13.1	廃棄物処理法	廃棄処分は関連法(地方政府、県、国家)に従わなければならない。
13.2	追加情報	適切な保護衣、手袋および目/顔面保護具を着用する。

14. セクション 14: 輸送上の注意

運送時に危険物として分類されていない。 危険物輸送に関する UN 勧告(the United Nations 'Recommendations on the Transport of Dangerous Goods')によれば、分類されていない。(IMDG, ICAO/IATA, ADR/RID).

14.1	国連番号	該当なし。
14.2	UN 適切な船積み名	該当なし。
14.3	輸送危険分類	該当なし。
14.4	輸送危険分類	該当なし。
14.5	環境に対する危険	知られていない。
14.6	使用者に対する特別な注意事項	該当なし。
14.7	MARPOL 73/78 Annex II および IBC コードに準拠したバルク輸送	該当なし。

15. セクション 15: 適用法令

15.1	特に当該物質または混合物に関する安全性、健康および環境についての規制/法律	
	SARA 313	なし。
	CERCLA RG's, 40 CFR 302.4	なし。
	Proposition 65(カリフォルニア)	
	Massachusetts MSL	なし。
	New Jersey Department of Health RTK List	なし。
	Pennsylvania RTK	なし。
	カナダ	
	WHMIS	D2B
	PIN 番号(Number)	該当なし。
	CANADA INGREDIENT DISCLOSURE LIST	なし。
15.2	化学物質安全性評価	決まっていない。利用可能な情報なし。

16. セクション 16: その他の情報

以下の項には改訂または新しい内容が含まれる: 1-16.

注釈

LTEL	長期暴露限界
STEL	短時間暴露限界
STOT	特定標的器官毒性

DNEL	求められた無影響量
PNEC	推定無影響濃度
PBT	難分解性、生物蓄積性、毒性
vPvB	高難分解性、高生物蓄積性

引火性液体 区分 1	引火性液体 カテゴリー1
引火性液体 区分 2	引火性液体 カテゴリー2
引火性液体 区分 3	引火性液体 カテゴリー3
急性毒性 区分 4	急性毒性 カテゴリー 4
皮膚腐食性 区分 2	皮膚腐食性/刺激性 カテゴリー2
眼刺激性物質 区分 2	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 カテゴリー2
特定臓器毒性(単回暴露) 区分 3	特定標的臓器への毒性 (単回暴露) カテゴリー3
特定臓器毒性(反復暴露) 区分 1	特定標的臓器への毒性 (反復暴露) カテゴリー1

危険有害性情報 と 危険有害性情報

H319: 強い眼刺激。

H315: 膚刺激性。

H335: 呼吸刺激を起こすおそれ。

P280: 保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用する。

P264: 取り扱いの後(手と暴露された皮膚)を徹底的に洗う。

P305 + P351 + P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。

次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

P312: 気分が悪い時は、医師に連絡する。

P332 + P313: 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

P362: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯する。

免責事項

記載の情報もしくは他の方法で提供された情報は最善の知見に基づき、誠意を持って提供しております。使用者は、これを参考として自らの責任において個々の取り扱い等の実態に応じ、適切なる措置をお取り願います。BioStatus はいかなる用途に対しても製品の適合性に関して保証するものではありません。法による場合を除き、暗黙の保証や条件 (法的なあるいはそうでない) はございません。BioStatus は、この情報に起因する損失または損害の責任を負うものではありません (欠陥製品が原因で死亡もしくは負傷し、そのことが証明された場合を除き)。特許、著作権および意匠のもと自由な使用権があるということではありません。